

工夫. 第79回日本臨床外科学会総会. 東京, 11月.

IV. 著 書

- 1) 小村伸朗. 第1部: 成人のヘルニア E. 食道裂孔ヘルニア・横隔膜ヘルニア 1. 食道裂孔ヘルニア. 榎瀬信太郎¹⁾ 監修, 諏訪勝仁責任編集, 早川哲史 (刈谷豊田総合病院), 嶋田 元¹⁾, 松原猛人¹⁾ (¹ 聖路加国際病院) 編. ヘルニアの外科. 東京: 南江堂, 2017. p.331-42.
- 2) 西川勝則. 第3章: 外科的治療を支える分野 D. 栄養管理. 矢永勝彦, 高橋則子編. 臨床外科看護総論: 系統看護学講座別巻. 第11版. 東京: 医学書院, 2017. p.115-23.
- 3) 坪井一人, 柏木秀幸. III章: 消化器疾患 A. 食道 1. アカラシア b. 外科的治療. 小池和彦¹⁾, 山本博徳 (自治医科大), 瀬戸泰之¹⁾ (¹ 東京大) 編. 消化器疾患最新の治療 2017-2018. 東京: 南江堂, 2017. p.106-8.
- 4) 矢永勝彦. 5. 外科領域における輸血療法. 学会認定・臨床輸血看護師制度カリキュラム委員会編. 看護師のための臨床輸血: 学会認定・臨床輸血看護師テキスト. 第2版. 東京: 中外医学社, 2017. p.34-49.

V. その他

- 1) Hoshino M, Omura N, Yano F, Yamamoto SR, Matsuda M, Yanaga K. Simultaneous diagnosis of familial achalasia: report of two cases. Surg Case Rep 2017; 3(1): 62.
- 2) Kanehira M, Futagawa Y, Furukawa K, Shiba H, Uwagawa T, Yanaga K. Radical resection of a primary unresectable duodenal cancer after chemotherapy using S-1 and cisplatin: report of a case. Surg Case Rep 2017; 3(1): 34.
- 3) Fujiwara Y, Shiba H, Nakabayashi Y, Otsuka M, Yanaga K. Hepatic abscess in the Spiegel lobe caused by foreign body penetration: report of a case report. Surg Case Rep 2017; 3(1): 24.
- 4) Tsunematsu M, Takahashi N, Murakami K, Misawa T, Akiba T, Yanaga K. Successful conversion surgery for gastric cancer with multiple liver metastases treated after S-1 plus cisplatin combination chemotherapy: a case report. Surg Case Rep 2017; 3(1): 95.
- 5) Abe K, Shiba H, Furukawa K, Sakamoto T, Ishida Y, Yanaga K. Repeated clostridium difficile infection after living donor liver transplantation. Clin J Gastroenterol 2018; 11(4): 309-11. Epub 2018 Mar 1.

呼吸器外科, 乳腺・内分泌外科

教授: 森川 利昭	呼吸器外科
教授: 秋葉 直志	呼吸器外科
教授: 武山 浩	乳腺・内分泌外科
教授: 木下 智樹	乳腺・内分泌外科
教授: 鳥海弥寿雄	乳腺・内分泌外科
准教授: 佐藤 修二	呼吸器外科
准教授: 川瀬 和美	乳腺・内分泌外科
准教授: 尾高 真	呼吸器外科
准教授: 野木 裕子	乳腺・内分泌外科
講師: 田部井 功	乳腺・内分泌外科

教育・研究概要

I. 呼吸器外科

胸腔鏡手術を中心とした呼吸器外科手術の研究を進めている。より安全な胸腔鏡手術の開発をめざしている。手術できる症例の適応を拡げていく基本方針に基づき, 病態に合わせた適切な手術と手術器械の改良を通じた手術法の改良がその中心である。特に内視鏡外科における胸腔鏡手術の位置付けと, 「胸腔鏡手術の最適化」を目標としている。

1. 胸腔鏡手術による呼吸器外科手術の適応拡大

胸腔鏡手術は身体に対する侵襲が小さいことから, 従来の開胸手術と比較して患者の回復, 社会復帰が早く, 術後のQOLが良好である。また高齢者や合併疾患を有する患者への手術も可能となり, 手術できる患者の適応を従来よりも拡大することが期待できる。我々は低肺機能などよりリスクの高い疾患や病態に対して最も手術侵襲の少ない完全モニター下での胸腔鏡手術の適応拡大を図っている。呼吸器疾患に対する胸腔鏡手術の適応限界について, 症例毎に慎重に検討し手術を続けている。

2. 肺癌に対する病態の把握と適切な外科手術法の選択

肺癌のうち腺癌は病態が多様であり, 適切な手術法に検討が必要である。我々はこれらの基礎的検討に基づき, 胸腔鏡手術を応用することにより, 適切な手術法の確立と成績改善を目指した臨床研究を進めている。

3. 縦隔疾患に対する手術方法の改良

縦隔は胸腔鏡手術の良い適応と考えられるが, 未だ知見の集積が不十分である。我々は胸腔鏡手術を改良し, 胸腺腫を中心とした疾患に対して本手術を応用する臨床研究を開始し症例を重ねている。

4. 新しい技術の臨床応用

1) 3D-CTの胸腔鏡手術への利用

胸腔内の立体的な解剖を直感的に捉えることができる3D-CTを胸腔鏡手術に応用することにより、胸腔鏡手術において俯瞰が比較的困難である欠点を補完し、全体の解剖を予測する。手術の安全に寄与するほか、個別の解剖の変異に対応することができる。

2) 生体質感造形技術を応用し3Dプリンタで開発した新しい胸腔モデル

CT-DICOMデータから3Dプリンタにより患者と同サイズの実体模型を作製し手術のシミュレーションに役立てている。実体模型にはさらに実際と同様の質感を付加すること（質感造形）により、従来の手術トレーニングシステムに代わる新しいシミュレーションシステムの構築を目指している。

3) 動画閲覧システムの開発

また教育・研究の面からインターネットを通じた動画閲覧システムの開発を進めている。

5. 次世代シーケンサーによる癌関連遺伝子の解析

肺癌は多様性に富む疾患であり治療法の選択は患者個人に適合した個別化治療が望まれる。患者個々の癌の生物学的特性は遺伝子変異によるところが大きい。当大学に導入された次世代シーケンサーを用いれば癌に関連した409遺伝子の約12,000領域を解析することが可能である。患者情報収集の重要な手段としてシーケンサーを活用し肺癌治療に遺伝子情報の解析、活用を加えた新しい治療体系を構築する。

II. 乳腺・内分泌外科

1. オリゴメタスタシス (oligometastases, OMBC: 少数転移性乳癌) に対する治療戦略の構築

乳癌の転移・再発例の中には、多臓器に多発する形態をとらず、少数個の遠隔転移巣で比較的緩徐な経過をとるものがある。この限局性・少数転移に対して、化学療法以外に局所治療（手術、放射線療法）などを組み合わせることで、長期生存または治癒が得られる場合がある。これらのOMBCに対し、腫瘍・血液内科と共同で、治療戦略を構築し、集学的治療の意義と予後予測因子探索の前向き観察研究を行っている。

2. センチネルリンパ節転移陽性乳癌における腋窩リンパ節郭清省略に対する観察研究

これまでセンチネルリンパ節生検し転移陽性だった場合、腋窩郭清を行ってきたが、一定の条件を満

たせば腋窩郭清を省略しても予後を悪化させる可能性は少ない。現在、腫瘍径、リンパ節転移巣の大きさ・個数、術後補助療法（放射線、薬物）などを基に、非郭清群の対象症例の経過を追う観察研究を行っている。

3. mTOR阻害剤（エベロリムス）感受性乳癌の同定

エベロリムスは、細胞増殖におけるPI3K/AKT/mTORシグナル伝達系を阻害する分子標的治療薬で、現在乳癌症例には手術不能例又は再発のみに使用が承認されているが、その良好な治療効果から適応拡大が望まれている。

当科で研究が進んでいるリン酸化酵素DYRK2とエベロリムスの関連を検証するために手術検体のDYRK2発現強度とエベロリムスの奏効率の相関性を検討している。またホルモン陽性乳癌細胞株を用いて、エベロリムス感受性の分子機構を網羅的解析により解明する。

4. 乳腺腫瘍に対する凍結療法

癌に対する凍結療法は欧米では、すでに多くの臨床実績があり、腎癌、肝癌、肺癌、子宮筋腫、骨腫瘍などで臨床応用が進んでいる。乳癌への凍結療法は柏病院でも行われ、良好な結果が得られた。

癌の根治性と術後乳房の整容性を両立した「究極の切らない乳癌治療」の実現を目指し、柏病院での実績を附属病院で継続する。

5. Stage IV乳癌に対する原発巣切除の意義に関する研究

遠隔転移のある乳癌の予後は不良であるが、治療法の進歩により生存期間も延長している。現在のガイドラインでは、原発巣切除は、局所コントロールが患者のQOLの維持に役立つ症例を選択しているが、最近のメタアナリシスでは遠隔転移があっても原発巣を外科的切除した症例において良好な結果が得られている。前述のOMBCに対する治療戦略と関連して、症例を選択し検討している。

6. 基礎研究

1) ヒト乳癌におけるDYRK2の細胞増殖制御の研究

DYRK2は細胞周期を制御しており、進行癌ではDYRK2が低下すると、細胞増殖が活発化し、進展・浸潤することが知られている。ヒト乳癌組織では、浸潤性乳癌では乳管内癌と比べDYRK2の発現が低下しており、進展・浸潤への関与が示唆される。In vivoでもDYRK2の発現低下癌細胞をマウスに移植すると、造腫瘍能の増強がみられる。

DYRK2の下流遺伝子をマイクロアレイなどによ

り網羅的に探索することで、癌の進展・浸潤に関する分子機構を解明し、新規治療戦略への応用を検討する。

2) 甲状腺癌における血清診断に関する研究

当科で作成した甲状腺乳頭癌に対するモノクローナル抗体 JT-95 を使用して血液、尿中の JT-95 の抗原物質の量を測定し、腫瘍マーカーとしての可能性を当大学分子細胞生物部と共同で研究している。

3) 甲状腺癌転移に関する研究

甲状腺乳頭癌ではリンパ節転移が多く、濾胞癌では血行性転移が多いことが知られている。「乳頭癌の遠隔転移には乳頭癌細胞とリンパ球との接着が関与している」という仮説を立て、前述の JT-95 を使用して、その関連を検討している。

4) 分化型甲状腺癌を対象としたレンパチニブの治療効果探索のためのコホート研究

乳頭癌などの分化型甲状腺癌は予後良好なことが多いが、リンパ節転移や血行性転移により根治切除不能な症例もあり、新たな治療法が必要とされている。新規分子標的薬レンパチニブが分化型甲状腺癌に使用できるようになり、当科ではレンパチニブの安全性、治療効果、予後に関して、多施設共同研究に参加するため大学倫理委員会へ治験審査申請し承認された。

「点検・評価」

1. 呼吸器外科

胸腔鏡手術が全呼吸器外科手術に占める割合は90%を越え、これは大学病院として世界に類を見ない高率である。大部分の肺癌症例についても胸腔鏡手術を実施し、良好な成績を得ている。縦隔腫瘍に対しても大部分を胸腔鏡手術で行い、その結果施設の評価が確立し、胸腺切除症例数は我が国で最多を数えている。3D プリントを応用した胸郭モデルの作成を行い、従来の動物実験による手術のトレーニングに代わる新しいモデルの確立と、これから派生する胸腔鏡手術体系の構築を引き続いて目指している。

2. 乳腺・内分泌外科

1) OMBC に対する治療戦略の構築

OMBC の定義、基本的治療戦略を立てるために、当院での過去の症例を元に腫瘍・血液内科と共同で計画し、転移臓器、転移巣の個数、および大きさなどの基本的な定義を決定し、標準的な治療戦略がある程度の柔軟性を持たせ、決定した。

2) センチネルリンパ節転移陽性乳癌における腋窩リンパ節郭清省略に対する観察研究

対象症例の経過を慎重に追ひ、介入なしの観察研究を行い、論文化を進めている。

3) エベロリムス感受性乳癌の同定

当科における乳癌手術検体を用い、免疫染色で DYRK2 発現強度を評価し、エベロリムスの奏功率の相関性を検討している。また同様に ER, PgR 陽性乳癌に対するエベロリムス感受性の分子機構の解明研究を網羅的に行っている。

4) 乳腺腫瘍に対する凍結療法

柏病院で行われた治療を、附属病院でも継続すべく大学倫理委員会へ治験審査申請を行い、承認され、既に2症例に対して施行した。

5) Stage IV 乳癌に対する原発巣切除の意義に関する研究

OMBC に対する治療戦略の構築と関連して、症例を選択し、観察研究を進めている。

6) 基礎研究

(1) ヒト乳癌における DYRK2 の細胞増殖制御の研究

リン酸化酵素 DYRK2 は培養細胞株において CDK14 を介し腫瘍増殖を制御することが、当科および生化学講座との共同で、明らかにされた。今後ともさらなる分子機構解明と、新規治療法開発への応用を検討していく。

(2) 甲状腺癌における血清診断に関する研究

JT-95 を使用した血清診断において、甲状腺乳頭癌では乳癌患者血清と比較して有意差を持って抗原量が多いことが確認されており、現在キット化を進めている。

(3) 甲状腺癌転移に関する研究

甲状腺乳頭癌のリンパ節転移の研究では、乳頭癌細胞とリンパ球の混合培養中に JT-95 を添加すると癌細胞とリンパ球の接着が阻害されることが明らかになった。現在そのメカニズムを引き続き研究中である。

(4) 分化型甲状腺癌を対象としたレンパチニブの治療効果探索のためのコホート研究

根治切除不能あるいは放射性ヨウ素治療抵抗性で進行性の分化型甲状腺乳頭癌患者に投与し、安全性、治療効果、予後に関して多施設共同研究に参加出来るように大学倫理委員会へ治験審査申請し、承認された。現在3例の登録を行い、今後も増える予定である。

研 究 業 績

I. 原著論文

- 1) Morikawa T, Yamashita M, Odaka M, Tsukamoto Y, Shibasaki T, Mori S, Asano H, Akiba T. A step-by-step development of real-size chest model for simulation of thoracoscopic surgery. *Interact Cardiovasc Thorac Surg* 2017; 25(2) : 173-6.
- 2) Odaka M, Tsukamoto Y, Shibasaki T, Mori S, Asano H, Yamashita M, Morikawa T. Surgical and oncological outcomes of thoracoscopic thymectomy for thymoma. *J Vis Surg* 2017; 3 : 54.
- 3) Sato T, Morikawa T. Video-assisted thoracoscopic surgery training with a polyvinyl-alcohol hydrogel model mimicking real tissue. *J Vis Surg* 2017; 3 : 65.
- 4) Kinoshita S, Miyake R, Shimada N, Hirano A, Seki Y, Harada J, Kato K, Uchida K, Takeyama H, Morikawa T. Initial experience with contrast-enhanced ultrasonography in follow-up assessment of small breast cancer treated by cryoablation. *Australas Med J* 2017; 10(7) : 599-606.
- 5) Tabei I, Tsuchida S, Akashi T, Ookubo K, Hosoda S, Furukawa Y, Tanabe Y, Tamura Y. Effects of a novel method for enteral nutrition infusion involving a viscosity-regulating pectin solution: a multicenter randomized controlled trial. *Clin Nutr ESPEN* 2018; 23 : 34-40.
- 6) Kawase K, Nomura K, Tominaga R, Iwase H, Ogawa T, Shibasaki I, Shimada M, Taguchi T, Takeshita E, Tomizawa Y, Nomura S, Hanazaki K, Hanashi T, Yamashita H, Kokudo N, Maeda K. Analysis of gender-based differences among surgeons in Japan: results of a survey conducted by the Japan Surgical Society. Part 1 : working style. *Surg Today* 2018; 48(1) : 33-43.
- 7) Nogi H, Uchida K, Mimoto R, Kamio M, Shioya H, Toriumi Y, Suzuki M, Nagasaki E, Kobayashi T, Takeyama H. Long-term follow-up of node-negative breast cancer patients evaluated via sentinel node biopsy after neoadjuvant chemotherapy. *Clin Breast Cancer* 2017; 17(8) : 644-9.
- 8) Miyake R, Kinoshita S, Shimada N, Uchida K, Takeyama H, Morikawa T. Preservation of the nipple-areola complex in skin-sparing mastectomy for early breast cancer. *Surg Today* 2018; 48(6) : 591-7. Epub 2018 Feb 21.
- 9) Tanaka K, Misawa T, Ashizuka S, Yoshizawa J, Akiba T, Ohki T. Risk factors for incisional hernia in children. *World J Surg* 2018; 42(7) : 2265-8. Epub 2017 Dec 29.
- 10) Kawahara H, Akiba T, Yanaga K. Cuff-less J pouch anal stapling anastomosis for ulcerative colitis. *Anti-cancer Res* 2017; 37(10) : 5743-5.
- 11) Tsunematsu M, Takahashi N, Murakami K, Misawa T, Akiba T, Yanaga K. Successful conversion surgery for gastric cancer with multiple liver metastases treated after S-1 plus cisplatin combination chemotherapy: a case report. *Surg Case Rep* 2017; 3(1) : 95.
- 12) Tanaka K, Misawa T, Haruki K, Saito R, Gocho T, Akiba T. Enucleation of solid pseudopapillary tumor with a preoperative nasopancreatic drainage stent in a child. *Asian J Endosc Surg* 2017; 10(4) : 438-41.
- 13) Shukuzawa K, Toya N, Momokawa Y, Fukushima S, Akiba T, Ohki T. Pulmonary embolism due to inferior vena cava compression by a retroperitoneal hematoma after endovascular repair of a ruptured abdominal aortic aneurysm. *Case Rep Vasc Med* 2017; 2017 : 8172549.
- 14) Ito Z, Takakura K, Suka M, Kanai T, Saito R, Fujioka S, Kajihara M, Yanagisawa H, Misawa T, Akiba T, Koido S, Ohkusa T. Prognostic impact of carbohydrate sulfotransferase 15 in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma. *Oncol Lett* 2017; 13(6) : 4799-805.
- 15) Nishie R, Toya N, Fukushima S, Ito E, Murakami Y, Akiba T, Ohki T. Prophylactic accessory renal artery coil embolization for prevention of Type II endoleak following endovascular aneurysm repair: a case report. *Surg Case Rep* 2017; 3(1) : 58.
- 16) Murakami Y, Toya N, Fukushima S, Ito E, Akiba T, Ohki O. Ascending aorta-common hepatic artery bypass for mesenteric revascularization. *Int J Surg Case Rep* 2017; 32 : 51-3.
- 17) 矢部三男, 塚本 遥, 仲田健男, 稲垣卓也, 秋葉直志, 森川利昭. 上大静脈を合併切除した前中縦隔脂肪腫の1手術例. *日呼外会誌* 2017; 31(2) : 165-9.
- 18) 恒松 雅, 仲田健男, 矢部三男, 市川晶博, 高木正道, 秋葉直志. 長期経過により荒蕪肺へ移行した肺放線菌症の1切除例. *日呼外会誌* 2016; 30(5) : 639-44.
- 19) 河原秀次郎, 秋葉直志, 矢永勝彦. DPCを考慮した直腸前方切除術後在院日数短縮に関する研究. *外科と代謝・栄養* 2017; 51(4) : 191-5.

II. 総 説

- 1) 三本 麗, 吉田清嗣. 【乳癌学—最新の診断と治療—】乳癌の分子生物学と発症機序 癌幹細胞の概念. *日臨* 2017; 75(増刊3 乳癌学) : 102-6.

Ⅲ. 学会発表

- 1) 尾高 真, 塚本 遥, 柴崎隆正, 森 彰平, 浅野久敏, 山下 誠, 森川利昭, 大木隆生. (口頭) 胸郭臓器一体モデル開発作成から胸腔鏡手術教育に至る当科の試み. 第117回日本外科学会定期学術集会. 横浜, 4月.
- 2) 野木裕子, 工藤 麗, 石垣貴之, 井廻良美, 神尾麻紀子, 加藤久美子, 塩谷尚志, 鳥海弥寿雄, 内田 賢, 武山 浩, 森川利昭, 大木隆生. (ポスター) 術前化学療法とセンチネルリンパ節生検による腋窩郭清回避の試み. 第117回日本外科学会定期学術集会. 横浜, 4月.
- 3) 山下 誠, 野田祐基, 塚本 遥, 柴崎隆正, 森 彰平, 浅野久敏, 尾高 真, 森川利昭. (口頭) 実体サイズ胸郭臓器一体モデルによる胸腔鏡手術トレーニング. 第30回日本内視鏡外科学会総会. 京都, 12月.
- 4) 仲田健男, 矢部三男, 佐藤修二, 秋葉直志, 森川利昭. (口頭) 呼吸器外科手術における3D-CT・立体モデルの手術支援についての検討. 第34回日本呼吸器外科学会総会. 福岡, 5月.
- 5) 浅野久敏, 塚本 遥, 柴崎隆正, 森 彰平, 山下 誠, 尾高 真, 森川利昭. (ポスター) 肺葉切除後に患側肺に生じた自然気胸症例の検討. 第34回日本呼吸器外科学会総会. 福岡, 5月.
- 6) 森 彰平, 塚本 遥, 柴崎隆正, 浅野久敏, 山下 誠, 尾高 真, 森川利昭. (ポスター) 肺癌術後の切除断端陽性症例に対する治療成績の検討. 第34回日本呼吸器外科学会総会. 福岡, 5月.
- 7) 矢部三男, 仲田健男, 佐藤修二, 秋葉直志, 森川利昭. 化学療法休薬中に縮小した直腸癌肺転移の1例. (ポスター) 第34回日本呼吸器外科学会総会. 福岡, 5月.
- 8) 五十嵐陽介, 松平秀樹, 広原和樹, 福島尚子, 吉田和彦, 森川利昭. 肺葉切除後造影CTを施行した100例中に認めた肺動脈切除断端部血栓の2症例. (ポスター) 第34回日本呼吸器外科学会総会. 福岡, 5月.
- 9) 柴崎隆正, 塚本 遥, 森 彰平, 浅野久敏, 山下 誠, 尾高 真, 森川利昭. (口頭) 異時性肺癌手術症例の検討. 第58回日本肺癌学会学術集会. 横浜, 10月.
- 10) 木下智樹, 三宅 亮, 島田直子, 平野明夫, 内田 賢, 武山 浩. (ポスター) 肉芽腫性乳腺炎の1例. 第25回日本乳癌学会学術総会. 福岡, 7月.
- 11) 田部井功, 伏見 淳, 伊藤恵理子, 浮池 梓, 田中星, 川瀬和美, 木下智樹, 岡本友好, 武山 浩, 森川利昭. (ポスター) 再発・転移男性乳癌に対する内分泌療法として的高用量トレミフェン療法. 第25回日本乳癌学会学術総会. 福岡, 7月.
- 12) 川瀬和美, 野坂涼子, 黒田 徹, 吉田和彦, 武山 浩. (ポスター) 日常臨床での nab-paclitaxel とアンスラ

サイクリン系術前化学療法における効果と安全性の検討. 第25回日本乳癌学会学術総会. 福岡, 7月.

- 13) 伏見 淳, 田部井功, 伊藤恵理子, 浮池 梓, 川瀬和美, 木下智樹, 岡本友好, 武山 浩, 森川利昭. (ポスター) 高用量トレミフェン療法の有効性と効果予測因子に関する検討. 第25回日本乳癌学会学術総会. 福岡, 7月.
- 14) 浮池 梓, 田部井功, 伏見 淳, 伊藤恵理子, 川瀬和美, 木下智樹, 岡本友好, 武山 浩, 森川利昭. (ポスター) ビスホスホネート投薬に至る内分泌療法中の乳癌患者における骨密度変化の特徴. 第25回日本乳癌学会学術総会. 福岡, 7月.
- 15) 佐藤修二, 稲垣卓也, 木下 陽, 齋藤桂介, 矢部三男, 森川利昭. (ポスター) 結核性胸膜炎の診断における局所麻酔下胸腔鏡検査の有用性に関する検討. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 長崎, 6月.
- 16) 塩谷尚志, 木下智樹, 島田直子, 三宅 亮, 關 義晃, 清水勤一郎, 原田潤太, 鈴木正章, 加藤久美子, 内田 賢, 武山 浩. (口頭) 小径乳癌に対する凍結療法・経過観察中の造影超音波検査使用経験. 第44回日本低温医学会総会. 鴨川, 10月.
- 17) Noda Y. (Oral) How is accurate wedge resection undergone of thin walled cavitory lesion? 第17回呼吸器胸腔鏡手術研究会例会. 京都, 12月.
- 18) 塚本 遥, 柴崎隆正, 森 彰平, 浅野久敏, 山下 誠, 尾高 真, 森川利昭, 片木宏昭. (口頭) 両側肺に発生した肺 MALT リンパ腫の1例. 第179回日本肺癌学会関東支部会. 東京, 7月.
- 19) Ishigaki T, Uruno T, Tanaka T, Ogimi Y, Masaki C, Akaishi J, Hames K Y, Yabuta T, Suzuki A, Tomoda C, Matsuzu K, Ohkuwa K, Kitagawa W, Nagahama M, Sugino K, Ito K. (Oral) Usefulness of stereotactic radiotherapy (SRT) using the CyberKnife for patients with inoperable locoregional recurrences of differentiated thyroid cancer. 29th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (APEC). Hanoi, Mar.
- 20) 風間高志, 野木裕子, 三本 麗, 井廻良美, 神尾麻紀子, 塩谷尚志, 鳥海弥寿雄, 内田 賢, 鈴木正章, 武山 浩. (ワークショップ27: 乳癌手術での腋窩リンパ節郭清) 乳癌のセンチネルリンパ節転移陽性症例への腋窩郭清省略は慎重にすべきである. 第79回日本臨床外科学会総会. 東京, 11月.

Ⅳ. 著 書

- 1) 川瀬和美. Part 3: 乳腺・乳房疾患の理解 Chapter 2: 乳腺・乳房疾患各論 乳腺炎. 落合慈之¹⁾監修, 針原 康¹⁾, 角田 肇¹⁾ (NTT 東日本関東病院) 編. 婦人科・乳腺外科疾患ビジュアルブック. 第2版. 東京: 学研メディカル秀潤社, 2017. p.365.

V. その他

- 1) Nakada T, Akiba T, Yabe M, Tanaka K, Nakano M, Suzuki M, Morikawa T. Clinicopathological features of thymoma with ring calcification: case reports. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 2017; 23(5): 256-61.
- 2) Ishigaki T, Kinoshita S, Shimada N, Miyake R, Suzuki M, Takeyama H. Breast metastasis nine years after nephrectomy for renal cell carcinoma: a case report. *Int J Surg Case Rep* 2017; 39: 145-9.
- 3) Kazama T, Tabei I, Sekine C, Funamizu N, Onda S, Okamoto T, Takeyama H, Morikawa T. Subareolar breast abscess in male patients: A report of two patients with a literature review. *Surg Case Rep* 2017; 3(1): 128.
- 4) 川瀬和美, 吉田和彦, 矢永勝彦. 若き外科医からの提言 わたしたちの将来の外科医療を見据えて 若手女性外科医のさらなる活躍のために 米国外科学会の取り組みからのヒント, *日外会誌* 2017; 118(5): 591-2.
- 5) 鳥海弥寿雄. 生涯学習センターだより 平成 29 年 6 月 10 日(土)開催月例セミナー 乳腺疾患について, *慈大新聞* 2017; 752: 3.

小児外科, 血管外科

教授: 大木 隆生	血管外科
教授: 吉澤 穰治	小児外科
准教授: 石田 厚	血管外科
准教授: 金岡 祐司	血管外科
准教授: 戸谷 直樹	血管外科
講師: 芦塚 修一	小児外科

教育・研究概要

I. 小児外科

1. 教育

4 年生を対象としたコアカリキュラム中で小児外科の系統講義は 2 時間である。小児外科疾患数が多く、2 時間の講義では疾患の概要を解説するのみになるが、豊富なスライドと国家試験でも活用できるプリントを用いて効率のよい学習ができるように計画した。不足分を補うために 5 年生では small group teaching と手術に直接参加する機会を多くすることによって小児外科疾患の知識の固定化を図っている。6 年生の選択実習においては、University of California, San Francisco において 1 か月の基礎医学実習ができるようにしている。研修医に対しては、小児の採血・点滴路の確保・皮膚縫合などの手技をはじめ、短期入院患児の術前・術後管理や消化管造影検査・尿路造影検査などの介助に参加させることで小児外科診療の特徴を感じてもらっている。外科レジデントには、臍ヘルニア・鼠径ヘルニア・虫垂炎手術・開腹噴門形成術・中心静脈路の確保などの術者・助手をすることによって、外科専門医修得のためにたる手術経験数の確保と手術手技の基本教育をおこなっている。小児外科専門医を目指す若手医師に対しては、専門医資格修得条件を満たすに足る症例を十分に経験できるようにしている。さらに指導医を目指す医師に対しては難易度の高い手術の術者経験を重ねられるよう配慮している。また、小児内視鏡外科手術手技の修得のため、若手医師には講習会への参加できるように配慮している。

2. 臨床研究

- 1) 乳幼児の便秘症患児の直腸内圧検査・直腸肛門反射に関する研究
- 2) 埋没陰茎に対するテストステロン投与と陰茎形成術との併用療法に関する研究
- 3) 重度膀胱尿管逆流症に対する膀胱鏡下 De-flux 注入療法の適応拡大に関する研究